

第7章

教員生活の実態と意識

第1節 教員の生活時間

1-1 出勤時刻・退勤時刻・学校にいる時間・睡眠時間

教員の「出勤時刻」の平均は午前7時43分、「退勤時刻」の平均は午後6時59分。「学校にいる時間」（「退勤時刻」の平均と「出勤時刻」の平均の差）は11時間16分であった。「出勤時刻」はいずれの学校種でも午前7時40分台であったが、「退勤時刻」は6時30分台から7時すぎにかけてとばらつきがみられる。「睡眠時間」はいずれの学校種でも、6時間強であった。

表7-1-1 出勤時刻・退勤時刻・学校にいる時間・睡眠時間〔平均値〕【教員調査】

	全体 (n=3,070)	普通科 (n=2,228)	Aグループ (n=246)	Bグループ (n=976)	Cグループ (n=507)	Dグループ (n=308)	総合学科 (n=227)	専門学科 (n=512)	工業 (n=229)	商業 (n=164)
出勤時刻（午前）	7時43分	7時42分	7時40分	7時41分	7時43分	7時47分	7時47分	7時48分	7時49分	7時46分
退勤時刻（午後）	6時59分	7時04分	6時59分	7時08分	7時05分	6時50分	6時58分	6時41分	6時38分	6時38分
学校にいる時間	11時間16分	11時間22分	11時間19分	11時間27分	11時間22分	11時間03分	11時間11分	10時間53分	10時間49分	10時間52分
睡眠時間	6時間06分	6時間05分	6時間03分	6時間02分	6時間06分	6時間13分	6時間07分	6時間14分	6時間17分	6時間10分

注1) 「出勤時刻」は、「出勤時刻（学校に着く時刻）は、だいたい午前何時ごろですか」への回答を、「6時以前」を5時30分、「8時半以降」を8時30分のように置き換えて、「無回答・不明」を除いて算出した。

注2) 「退勤時刻」は、「退勤時刻は、だいたい午後何時ごろですか」への回答を、「5時以前」を4時30分、「10時以降」を10時のように置き換えて、「無回答・不明」を除いて算出した。

注3) 「学校にいる時間」は、出勤時刻の平均から退勤時刻の平均までの時間を計算したものの。

注4) 「睡眠時間」は、「睡眠時間はどれくらいですか」への回答を、「4時間以内」を4時間、「9時間以上」を9時間のように置き換えて、「無回答・不明」を除いて算出した。

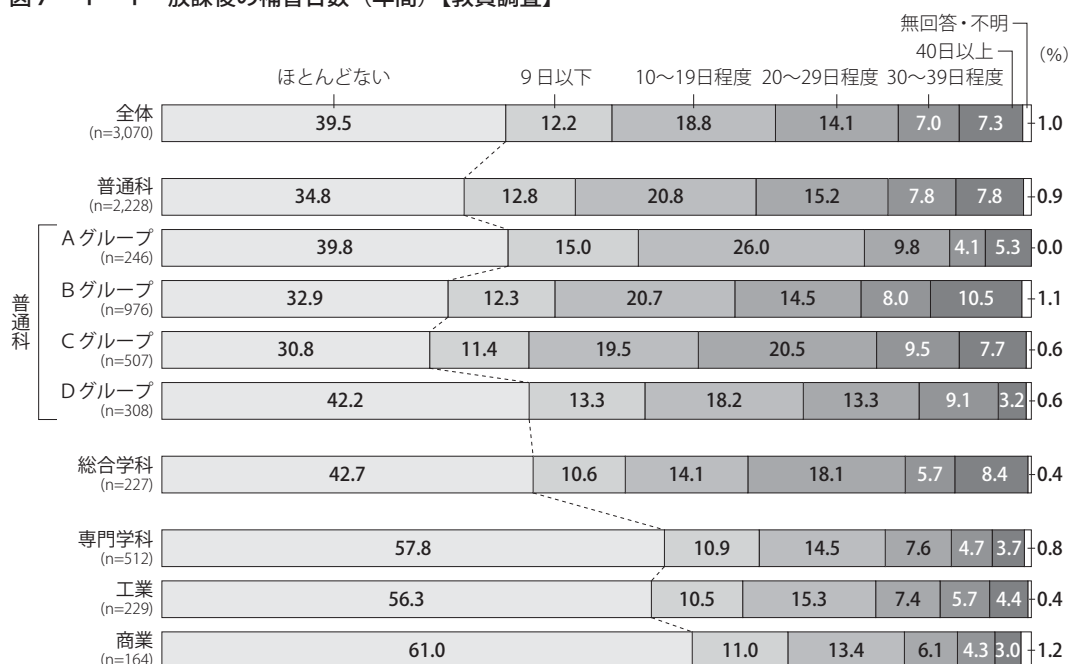
教員の生活時間についてたずねたところ、「出勤時刻」の平均は午前7時43分、「退勤時刻」の平均は午後6時59分であった（表7-1-1）。ここから、「学校にいる時間」（「退勤時刻」の平均と「出勤時刻」の平均の差）を算出すると、11時間16分であった。学校種別にみると、「出勤時刻」については午前7時40分台で大きなばらつきはみられないが、「退勤時刻」

は午後6時30分台から7時すぎにかけてとばらつきがみられる。「学校にいる時間」がもっとも長いのは、普通科Bグループで11時間27分であった。「睡眠時間」についてみると、全体平均では6時間06分であった。学校種によるばらつきはややみられるものの、いずれも6時間強となっている。

1-2 放課後の補習日数（年間）

放課後の補習は約4割の教員が「ほとんどない」と回答している。日数にはばらつきがあるが、放課後の補習を行っている教員は約6割を占める。年間に「10～19日程度」行う教員は18.8%、「20～29日程度」は14.1%、「9日以下」は12.2%となっている。補習の実施には学校種別の違いもみられ、普通科Cグループの教員の実施率ももっとも高い。

図7-1-1 放課後の補習日数（年間）【教員調査】



平日の放課後の補習の実施状況をたずねたところ、全体では約4割の教員が「ほとんどない」と回答している（図7-1-1）。日数にはばらつきがあるが、放課後の補習を行っている教員は約6割を占める。日数の分布をみると、年間に「10～19日程度」行う教員は18.8%、「20

～29日程度」は14.1%、「9日以下」は12.2%となっている。補習の実施には学校種別の違いもみられる。普通科Cグループでは約7割の教員が放課後の補習を実施しており、もっとも実施率が高い。

IV 教職の現在

1-3 土日の出勤頻度

土日の出勤状況は、「ほとんど毎週出勤している」教員が約半数。「2週間に1日程度出勤している」教員も2割強いる。とくに普通科 A・B グループの教員の土日出勤頻度が高い。

図7-1-2 土曜日・日曜日の出勤頻度（部活動や学校行事も含む）【教員調査】

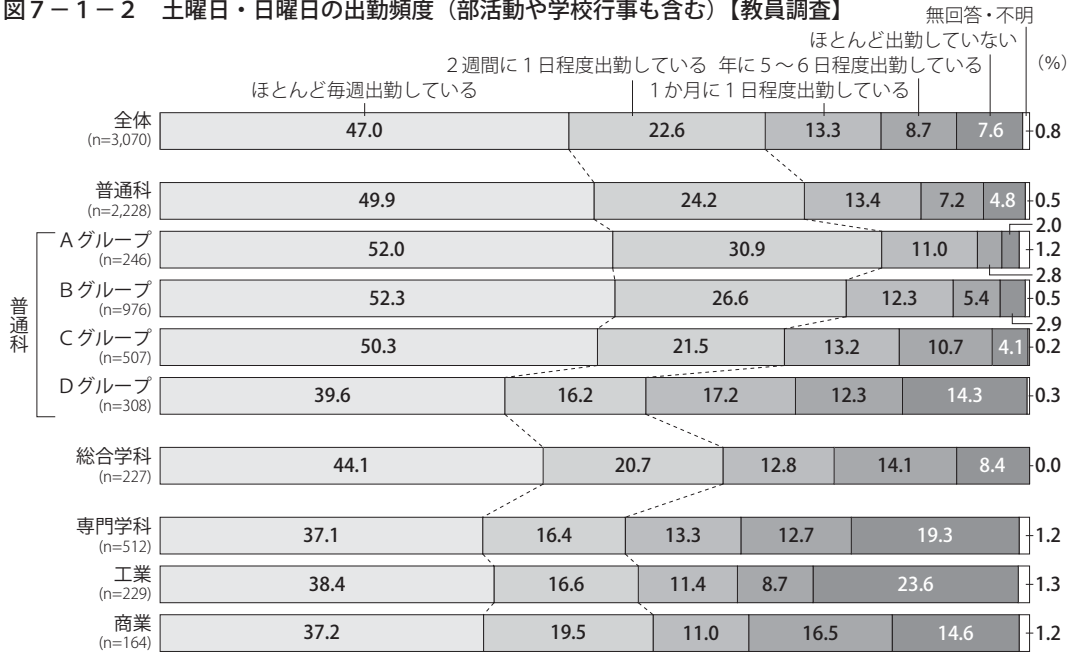
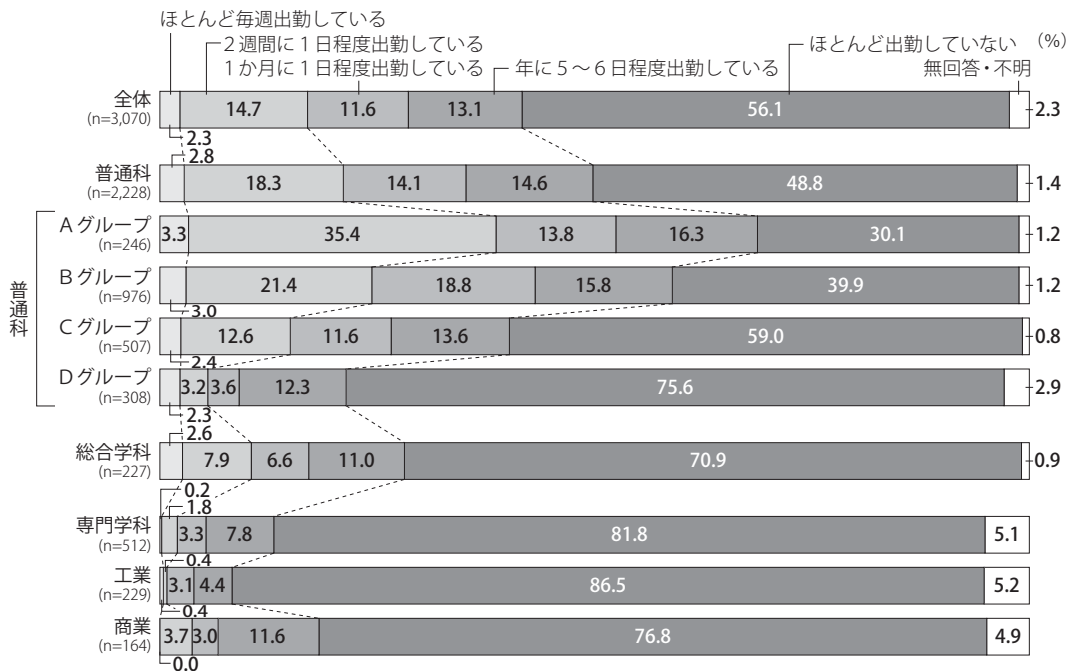


図7-1-3 土曜日・日曜日の出勤頻度（補習や授業）【教員調査】



土日の出勤状況は、「ほとんど毎週出勤している」教員が47.0%で約半数となっている（図7-1-2）。「2週間に1日程度出勤している」教員も22.6%いる。学校種による差もみられ、とくに普通科A・Bグループの教員の出勤頻度が高い。

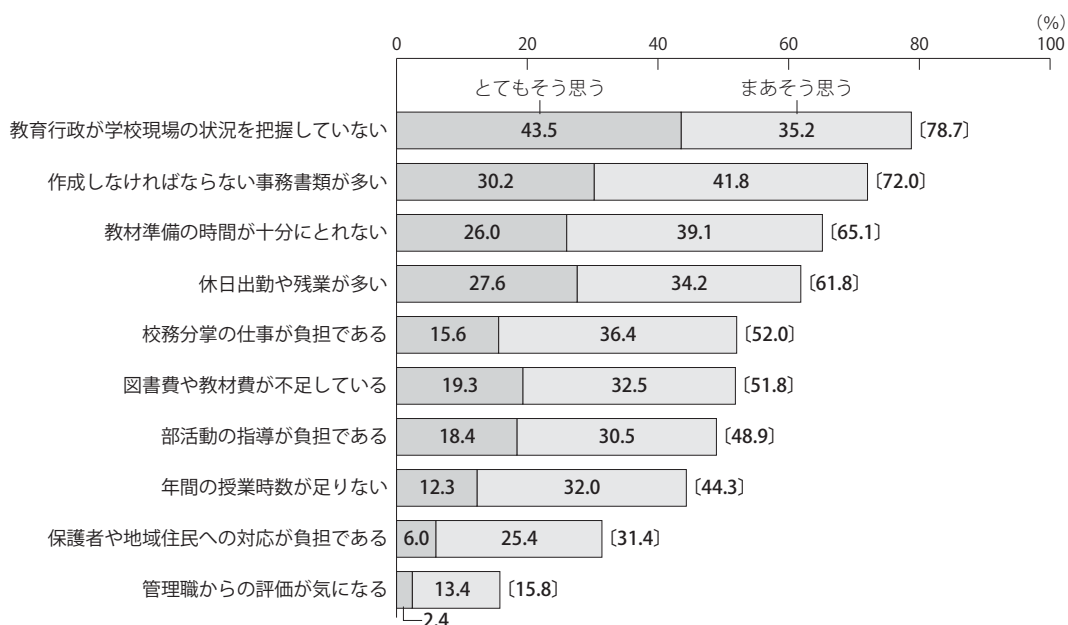
土日出勤のうち「補習や授業のための出勤」頻度をたずねると、全体では「ほとんど出勤し

ていない」が56.1%と半数以上を占め、「2週間に1日程度出勤している」は14.7%であった（図7-1-3）。ただし、補習や授業のための出勤頻度には学校種による差がみられる。普通科Aグループでは「2週間に1日程度出勤している」教員が35.4%ともっとも多く、補習や授業のための出勤が多いことがわかる。

第2節 教員の悩み

教員の悩みをたずねると、「教育行政が学校現場の状況を把握していない」（78.7%：「とてもそう思う」「まあそう思う」の合計、以下同）という悩みがもっとも高い。そのほか、「作成しなければならない事務書類が多い」（72.0%）、「教材準備の時間が十分にとれない」（65.1%）、「休日出勤や残業が多い」（61.8%）など、日々の忙しさに悩みを感じる教員が多い。

図7-2-1 教員の悩み【教員調査】（全体）



注1) 教員の悩みについてたずねた15項目のうち、生徒に関する5項目を除いた10項目のみを示した。

注2) [] 内は「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

IV 教職の現在

表7-2-1 教員の悩み【教員調査】

	全体 (n=3,070)	普通科 (n=2,228)	Aグループ (n=246)	Bグループ (n=976)	Cグループ (n=507)	Dグループ (n=308)	総合学科 (n=227)	専門学科 (n=512)	工業 (n=229)	商業 (n=164)
教育行政が学校現場の状況を把握していない	78.7	78.8	79.3	78.6	80.5	78.6	78.8	78.1	78.2	76.8
作成しなければならない事務書類が多い	72.0	73.0	73.9	72.7	75.3	68.9	71.8	<u>66.8</u>	<u>66.8</u>	<u>66.4</u>
教材準備の時間が十分にとれない	65.1	67.7	<u>71.5</u>	68.3	67.9	62.1	67.4	<u>52.2</u>	<u>45.4</u>	<u>59.7</u>
休日出勤や残業が多い	61.8	66.3	<u>74.4</u>	<u>69.4</u>	64.9	<u>47.4</u>	<u>56.4</u>	<u>45.0</u>	<u>48.5</u>	<u>41.5</u>
校務分掌の仕事が負担である	52.0	53.4	48.0	52.8	<u>57.2</u>	53.9	51.9	<u>44.3</u>	<u>40.6</u>	<u>45.1</u>
図書費や教材費が不足している	51.8	52.1	52.0	52.3	55.4	48.7	49.7	50.7	48.0	51.8
部活動の指導が負担である	48.9	50.5	48.8	52.8	<u>55.0</u>	<u>40.9</u>	47.5	<u>43.2</u>	46.3	<u>40.9</u>
年間の授業時数が足りない	44.3	45.0	<u>50.4</u>	<u>52.1</u>	41.6	<u>28.3</u>	39.6	42.2	44.6	42.0
保護者や地域住民への対応が負担である	31.4	32.0	28.1	29.0	35.1	<u>40.0</u>	30.4	28.6	28.4	<u>25.0</u>
管理職からの評価が気になる	15.8	15.6	15.9	16.0	17.0	11.3	<u>21.2</u>	13.9	13.5	15.8

注1) 「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

注2) 教員の悩みについてたずねた15項目のうち、生徒に関する5項目を除いた10項目のみを示した。

注3) ○は全体よりも5ポイント以上、●は10ポイント以上高いものを示す。

注4) は全体よりも5ポイント以上、 は10ポイント以上低いものを示す。

教員の悩みをたずねると、「教育行政が学校現場の状況を把握していない」に「そう思う」（「とてもそう思う」「まあそう思う」の合計、以下同）と回答した教員の比率が78.7%ともっとも高い（図7-2-1）。そのほか、「作成しなければならない事務書類が多い」（72.0%）、「教材準備の時間が十分にとれない」（65.1%）、「休日出勤や残業が多い」（61.8%）など、日々の忙しさに悩みを感じる教員が多い。

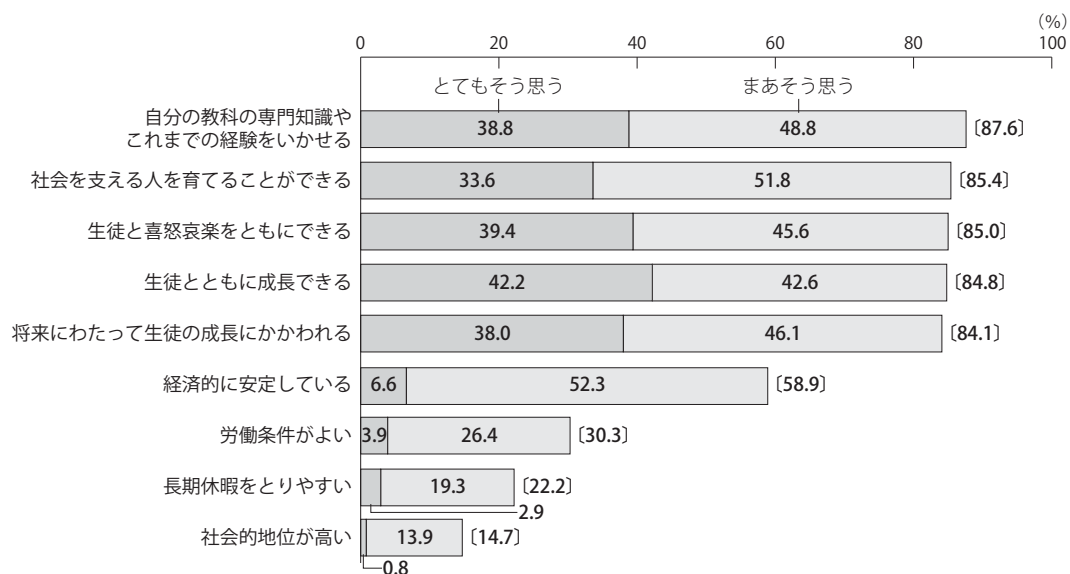
教員の悩みは学校種による差が大きい。「休日出勤や残業が多い」について、「そう思う」と回答した教員は、全体では61.8%に対し、普通科Aグループでは74.4%である（表7-2-1）。また、「教材準備の時間が十分にとれない」「年間の授業時数が足りない」については、「そう思う」と回答した教員の比率は、普通科Aグループでは全体に比べ5ポイント以上高くなっている。

第3節 教職の魅力

3-1 教職の魅力（全体）

「自分の教科の専門知識やこれまでの経験をいかせる」（87.6%：「とてもそう思う」「まあそう思う」の合計、以下同）、「社会を支える人を育てることができる」（85.4%）など、高校教員は専門性や生徒との関係などの側面に魅力を感じている。一方、「労働条件がよい」（30.3%）、「長期休暇をとりやすい」（22.2%）、「社会的地位が高い」（14.7%）などに肯定する比率は低い。

図7-3-1 教職の魅力【教員調査】（全体）



注) [] 内は「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

教員に教職のどこに魅力を感じるかをたずねたところ、「自分の教科の専門知識やこれまでの経験をいかせる」（87.6%：「とてもそう思う」「まあそう思う」の合計、以下同）、「社会を支える人を育てることができる」（85.4%）、「生徒と喜怒哀楽をともにできる」（85.0%）など、高校教員は専門性や生徒との関係などの側面に魅力を感じている（図7-3-1）。また、「経

済的に安定している」ことに魅力を感じる教員は58.9%であった。一方、「労働条件がよい」（30.3%）、「長期休暇をとりやすい」（22.2%）、「社会的地位が高い」（14.7%）などに肯定する比率は低い。

しかし、学校種別にみると、教職の魅力には差がみられたため、3-2で詳しくみてみよう。

IV 教職の現在

3-2 教職の魅力（学校種別）

普通科 A グループの教員は「自分の教科の専門知識やこれまでの経験をいかせる」に 91.0% が「そう思う」（「とてもそう思う」「まあそう思う」の合計、以下同）と回答しているのに対し、普通科 D グループでは 81.8%にとどまる。普通科 D グループでは「労働条件がよい」に 32.5%が「そう思う」と回答しているのに対し、普通科 A グループでは 25.6%にとどまる。

図 7-3-2 自分の教科の専門知識やこれまでの経験をいかせる【教員調査】

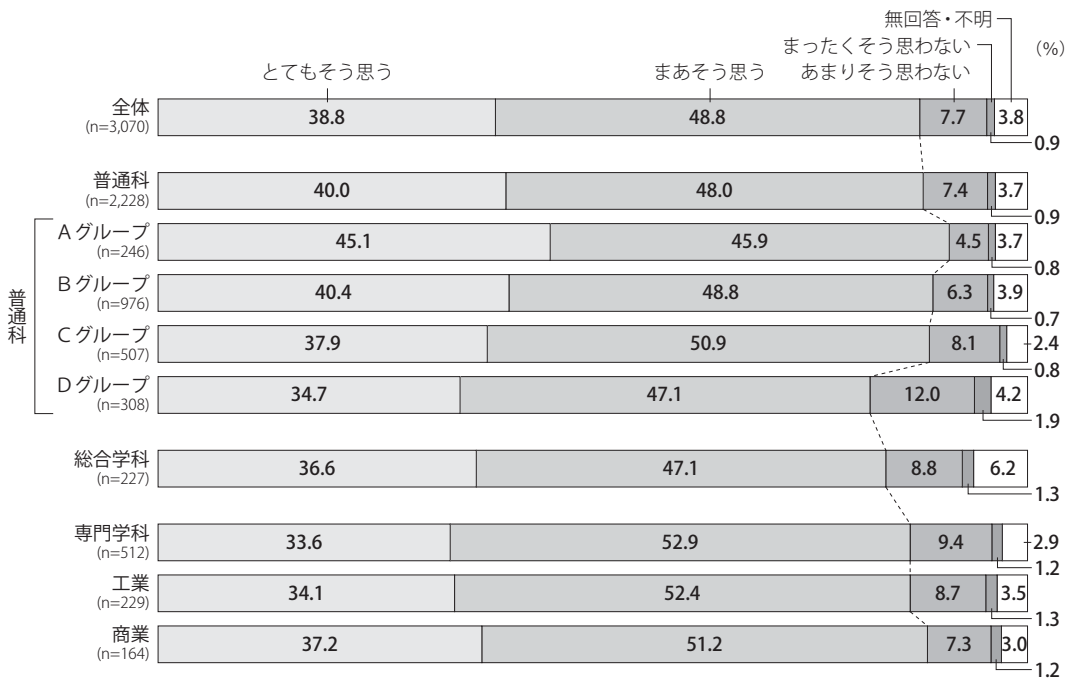
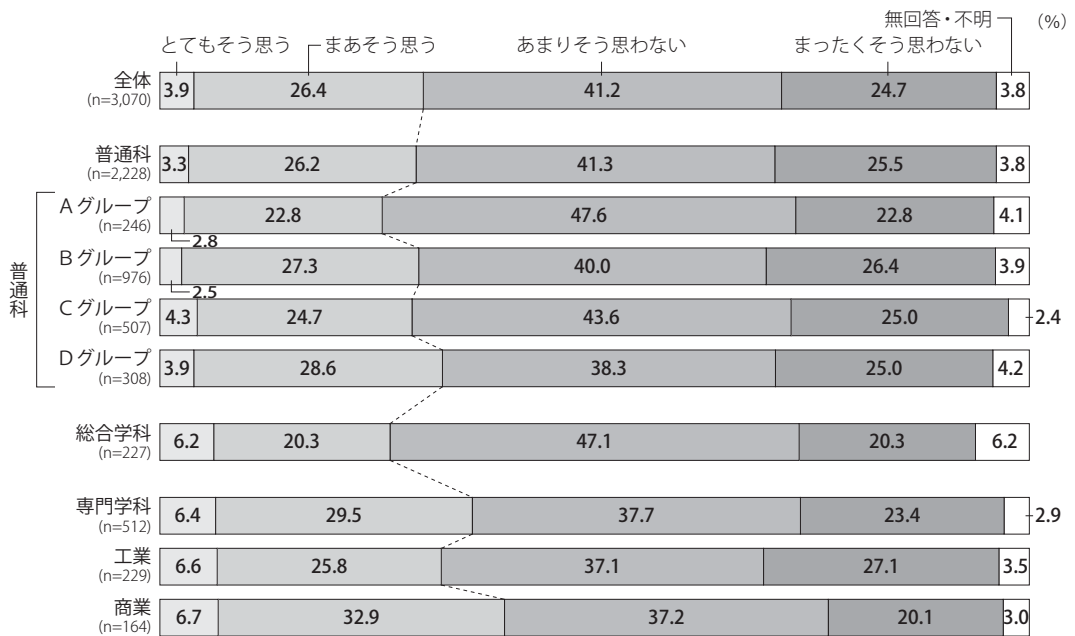


図7-3-3 労働条件がよい【教員調査】



普通科 A グループの教員は「自分の教科の専門知識やこれまでの経験をいかせる」に91.0%が「そう思う」「とてもそう思う」「まあそう思う」の合計、以下同)と回答しているのに対し、普通科 D グループでは81.8%にとどまる (図7-3-2)。専門学科の教員も

86.5%と比較的高めである。普通科 D グループの教員は「労働条件がよい」に32.5%が「そう思う」と回答しているのに対し、普通科 A グループでは25.6%にとどまる (図7-3-3)。専門学科、とくに商業の教員は39.6%と相対的に高めである。

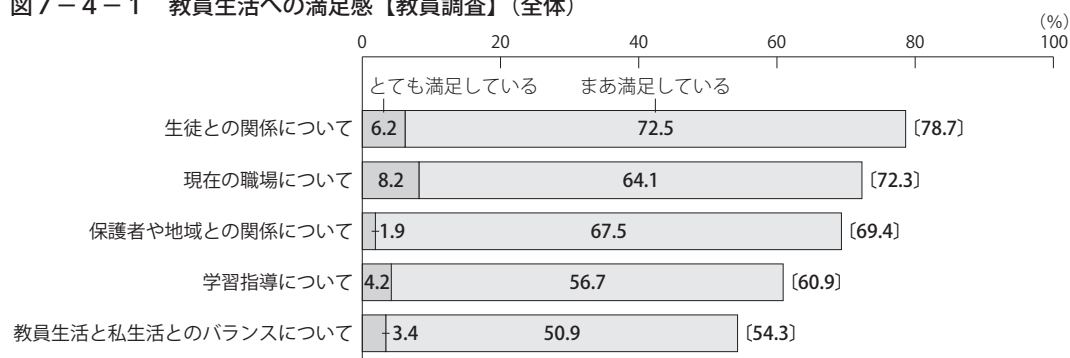
IV 教職の現在

第4節 教員生活への満足感

4-1 教員生活への満足感

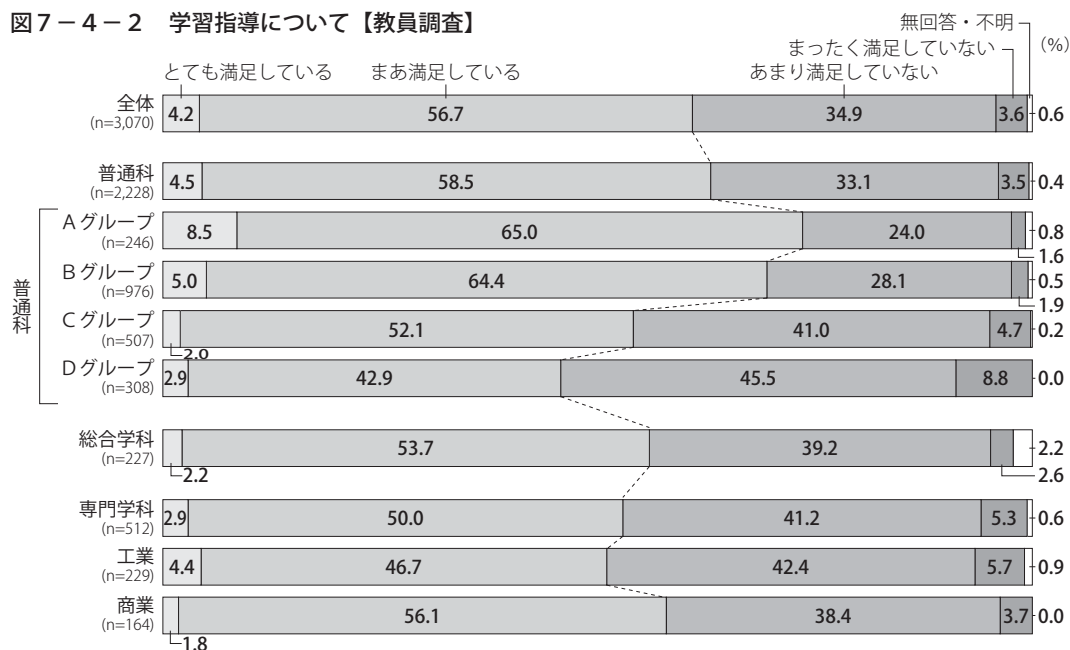
教員生活への満足感をたずねると、「生徒との関係について」の満足感が78.7%と最も高い。「教員生活と私生活とのバランスについて」の満足感は54.3%と相対的に低い。

図7-4-1 教員生活への満足感【教員調査】(全体)



注) [] 内は「とても満足している」+「まあ満足している」の%。

図7-4-2 学習指導について【教員調査】



教員生活のさまざまな側面における満足感をたずねると、「生徒との関係について」の満足感（「とても満足している」「まあ満足している」の合計、以下同）が78.7%と最も高い（図7-4-1）。「教員生活と私生活とのバランスについて」の満足感は54.3%と相対的に低い。

満足感には学校種による特徴がみられ、「学習指導について」の満足感は、普通科(63.0%)>総合学科(55.9%)>専門学科(52.9%)の順に高い（図7-4-2）。普通科のなかでもAグループは「学習指導について」の満足感が73.5%と高い。

図7-4-3 現在の職場について【教員調査】

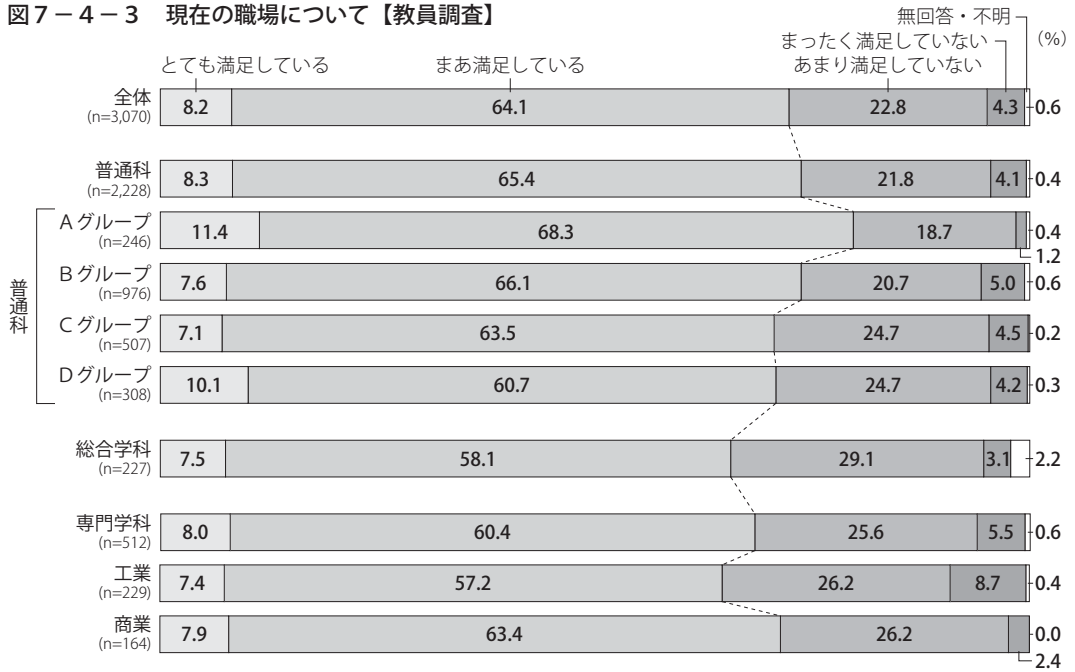
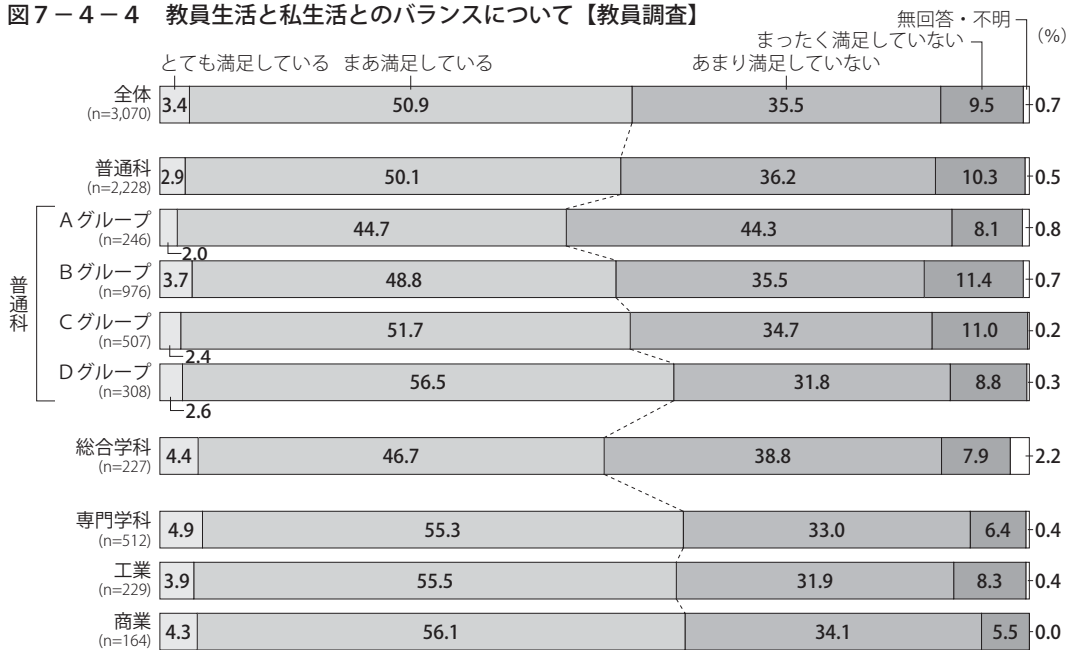


図7-4-4 教員生活と私生活とのバランスについて【教員調査】



「現在の職場について」の満足度は、普通科(73.7%)>専門学科(68.4%)>総合学科(65.6%)の順に高い(図7-4-3)。普通科のなかでも、Aグループは「現在の職場について」の満足度が79.7%と最も高い。

「教員生活と私生活とのバランスについて」

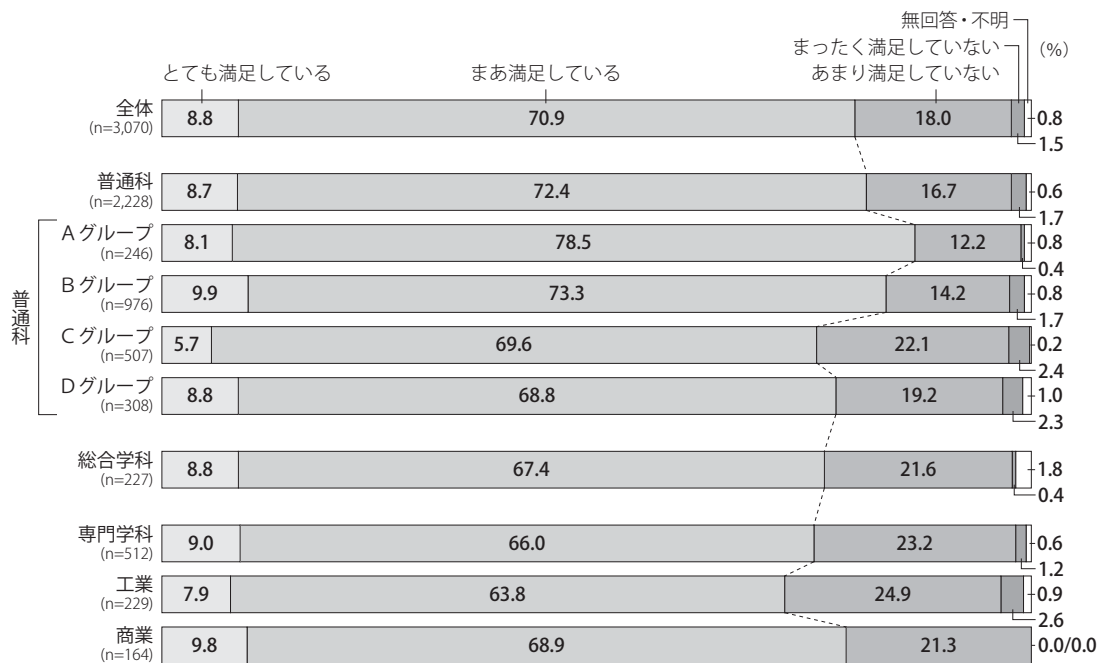
の満足度は、専門学科(60.2%)>普通科(53.0%)>総合学科(51.1%)の順に高い(図7-4-4)。普通科のなかでもDグループは「教員生活と私生活とのバランスについて」の満足度が59.1%と最も高く、Aグループは46.7%と最も低い。

IV 教職の現在

4-2 教員生活に対する総合的な満足感

教員生活に対する総合的な満足感をたずねると、「とても満足している」は8.8%、「まあ満足している」は70.9%である。両者の合計で8割近くが「満足している」と回答しているが、「とても満足している」の比率は低い。学校種別に差がみられ、普通科Aグループでは「満足している」が86.6%ともっとも高く、専門学科のうち工業では71.7%ともっとも低い。

図7-4-5 教員生活に対する総合的な満足感【教員調査】



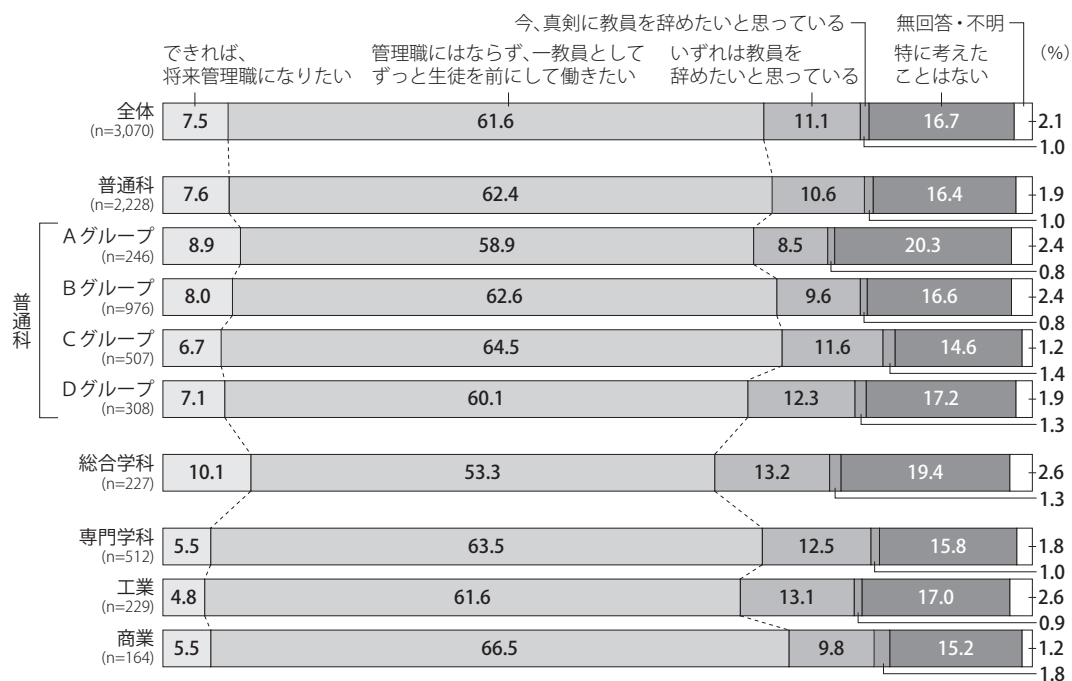
教員生活に対する総合的な満足感をたずねると、「とても満足している」は8.8%、「まあ満足している」は70.9%である（図7-4-5）。両者の合計で8割近くが「満足している」（「とても満足している」「まあ満足している」の合計、以下同）と回答しているが、「とても満足して

いる」の比率は低い。教員生活に対する総合的な満足感には学校種による差がみられ、普通科Aグループでは「満足している」が86.6%ともっとも高く、専門学科のうち工業では71.7%ともっとも低い。一方、専門学科であっても商業は「満足している」が78.7%と高めである。

第5節 将来展望

高校全体では約6割の教員が「管理職にはならず、一教員としてずっと生徒を前にして働きたい」と回答。「できれば、将来管理職になりたい」という回答は7.5%である。

図7-5-1 将来展望【教員調査】



高校全体では約6割の教員が「管理職にはならず、一教員としてずっと生徒を前にして働きたい」と回答している(図7-5-1)。このように回答する比率は、いずれの学校種においても5~6割となっている。その他の選択肢に

ついてみると、「特に考えたことはない」(16.7%)、「いずれは教員を辞めたいと思っている」(11.1%)、「できれば、将来管理職になりたい」(7.5%)、「今、真剣に教員を辞めたいと思っている」(1.0%)と続く。